



平井輝七《風》 1938年

AVANT-GARDE
Rising:
THE PHOTOGRAPHIC VANGUARD
in MODERN JAPAN

アヴァンガルド勃興

近代日本の前衛写真

2022年5月20日(金).....8月21日(日)

東京都写真美術館3階展示室 恵比寿ガーデンプレイス内

開館時間 | 10:00-18:00(木・金曜日は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日 | 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合開館し、翌平日休館)

観覧料 | 一般700円/学生560円/中高生・65歳以上350円

小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名様まで)は無料。

本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。

事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

主催 | 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

TOP MUSEUM



平井輝七《月の夢想》 1938年



天野龍一《オートグラム 代謝》 1938年



後藤敬一郎《最後の審判図》 1938-40年



瑛九《フォト・デッサン》より 1939年

アヴァンギャルド勃興 近代日本の前衛写真

近代日本写真史における前衛写真は、海外から伝わってきたシュルレアリスムや抽象美術の影響を受け、1930年代から1940年代までの間に全国各地のアマチュアのグループを中心に勃興した写真の潮流です。活発に作品が発表された時期が短か



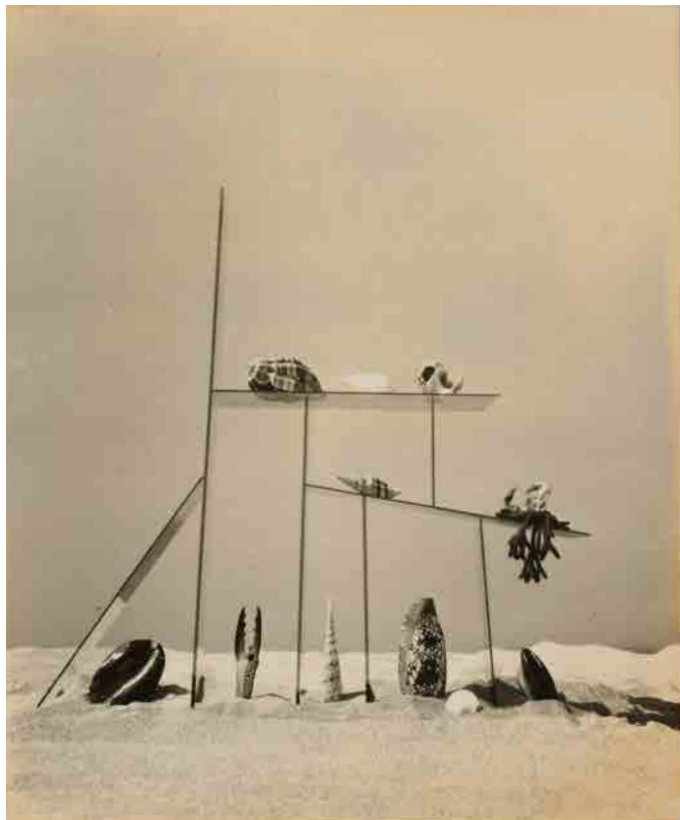
永田一脩《火の山》 1939年

かったことから、今まで活動内容についての検証があまりなされていませんでした。しかし近年、各地の美術館により研究が進み、海外の展覧会でも注目される機会が増えています。

それまでも写真にとって絵画の影響は強いものでしたが、前衛写真は画家だけではなく詩人やデザイナーなどが参加し、その活動の幅を広げていました。特に1937年に「海外超現実主義作品展」が開催されたことによって、多くの写真家が触発され新しい表現へ向かい、画家たちは写真を使って、絵画では出来ない表現に挑戦していきました。しかし、戦時下体制の強化とともに各地で行われていた活動も収束へと追い込まれていきます。

時代の波にあらがうことができずに、戦争の陰に隠れてしまっていた作品を見ていただくことで、自由に表現できる大切さと、写真で表現できることの幅広さを実感していただけることでしょう。

※所蔵記載のないものは東京都写真美術館所蔵



久野久《海のショーウインドウ》 1938年 福岡市美術館蔵

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。
当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。